

### 第3話 Nクリニック

今回は、Nクリニックを紹介します。

こちらは、第1話でのPEP OSAKA、第2話でのゴルフスクールGOLF LABO(以下ゴルフラボ)と同じ建物内にあります。

日本ではまだまだ聞きなれない「コンディショニングドクター」という立場から、整形外科クリニック・スポーツクリニックとして地域の方はもちろん、府外の医療関係機関やプロスポーツ選手にまで、幅広く頼りにされている施設です。

院長の中里伸也先生は、日本体育協会認定スポーツドクターであり、bjリーグ大阪エヴェッサチームドクター、大阪体育大学診療所医師、桃山学院大学スポーツ医でもあります。

また、スポーツ医学に関する著書やテレビ出演など、多岐にわたってご活躍をされています。今回は、中里先生にお話を伺いました。



#### コンディショニングドクターという立場

中里先生は、日本では数少ないコンディショニングドクター(自称)の1人です。コンディショニングドクターとは、選手を主役として、単なる治療だけではなく、治療から復帰、復帰後からの再発予防のリハビリからトレーニングなどのコンディショニングまで総合的な関わりを持つドクターのことを言います。

「私が目指すスポーツドクターとは、あらゆるレベルのスポーツの外傷・障害に対応できるような身体各部の診断学にも優れたドクター、また個々のスポーツ選手の異なるニーズに対応した治療方針の提供や決定ができるドクターのことで。またスポーツ現場においても即座の対応ができるドクターのことであります。

日本には手術の腕が世界的にも誇れるドクターはたくさんいます。しかし、今、手術を本当に受けなくてはならないのか、今手術をしないのならどういった方法で今を乗り切って対応するのがその選手に一番よいのかなど、選手を中心とした時期や状況を判断材料として方針を立てることができるドクター(私が理想とするドクター)はほとんどいません。

それどころか日本には、手術しなくてもよいものまで適応を広げて手術して取り返しのつかない結果になっている現状がたくさんあります。私は幸いにしてスタッフに恵まれています。

手術以外の方法としてのリハビリテーションやトレーニングがスポーツ選手に提供できる優秀なPTやATや物理療法の機械を使いこなせるスタッフと一緒に仕事ができているので、手術の適応は非常に少なくてすんでいます。つまりできるだけ手術をしないで行ける方法を構築しつつあります。

私のコンディショニングドクターとしての仕事は、本当にしなくてはならない手術は一流のドクターに受けることができる環境をつくること、また手術なしで対応する場合にはそういった治療を提供できる環境をつくることにより、プロの選手も受けているような治療を一般のスポーツ選手にも提供することです」と中里先生は話します。

これは、単なる診断や治療だけにとどまらず、時には運動療法のアドバイスや、選手を取り巻く環境整備のマネジメントなど、多岐にわたるといえます。

「スポーツ現場と密接につながる方法を熟知していて、実際に最適なものを具現化してきたノウハウが蓄積されていること」がNクリニックの強みです。

#### 多様かつ継続的な受け入れ態勢を整える

Nクリニックは、今まで紹介した提携施設のPEP OSAKAやゴルフラボと同じ建物内にあります。

1FがPEP OSAKA、2FがNクリニック、3Fがゴルフラボになっています。また、PEP OSAKAバフォーマンスコート、PEP治療院が建物に隣接しています。

これは、Nクリニックでの「診察・治療・リハビリ」、PEP OSAKAとゴルフラボでの「傷害予防・競技力向上」、PEP治療院での「リラクゼーション・治療」という明確な役割を持つ施設が1か所に集中しているということです。



ですから、患者や利用者に対して、3つの大きな窓口から受け入れ態勢を整えているとも言えるでしょう。そして、どの窓口から入っても、提携施設同士の密接な関わりによって、患者のニーズを遥かに上回る「豊かさ」を提供しているのです。さらに、このことは、変動する患者のニーズに対しても適切な対応を可能にするものでもあるのです。

これが、Nクリニックをはじめとした提携施設が評価され、継続的に支持される大きな理由の1つなのです。

### スポーツ界全体の提携を目指す

中里先生は現在、大阪府下や和歌山県にある病院や治療院とも提携しています。遠くから訪れる患者様の負担を考慮して、地元の病院や治療院とコミュニケーションをとりながら独自の治療システムを構築したのです。これによって、非常に高い治療効果を得ることができたそうです。



また、「身体各部の手術に関しても、選手にとって最も幸せな選択をする。」と中里先生は話します。

ご自分でもあらゆる部位の関節鏡の手術はされますが、膝の手術では大阪労災病院の堀部先生、肩の手術なら大阪厚生年金病院の米田先生、肘や手の手術なら行岡病院の正富先生といった具合により専門の一流のドクターに躊躇なくお願いするのだそうです。それらの手術を頼んだ後のリハビリはきっちりとNクリニックで行うといった形態をつくり上げています。

「私は、Nクリニック内で全てを最適に完結できるとは思っていません。1つの施設、1人のドクターができることはたかが知れていますから。

私は選手にとって最もよい選択をしてあげることが大切だと考えるのです。日本のドクターはすべてを自分でしようと考えすぎなのでは？」と中里先生は話します。

### 「To the Goal ～ゴールに向かって」

Nクリニックの治療コンセプトは「To the Goal」です。これは、患者様の目標達成に貢献することなのです。

よくある話として、ケガで病院を訪れた際に、「念のために練習を休みなさい」「スポーツを止めなさい」「試合出場は止めなさい」という言葉を、安易に発せられる場合があることを耳にします。しかし、中里先生は、この言葉を決して安易に発しません。

事実や実態を適切に捉えることなく、選手の都合を無視した助言は、「選手の成長やキャリアにとっての大きな機会ロス」につながることを十分に理解しているからです。

Nクリニックには、そういった選手も多く訪れます。そして、選手や付添いの保護者やチームの監督へ事実や実態を適切に伝え、しっかり理解してくれて表情が明るくなるだけでなく、その後もスポーツ医学に興味・関心を持ち、コミュニケーションをとってくれるのだそうです。

「この瞬間が凄く嬉しい」と中里先生は話します。



### 進化・成長の秘訣

Nクリニックは、開院して1年ほどの施設です。しかし、地域の方から府内外の学生アスリート、世界を転戦するトップアスリートまで、幅広い層に信頼され、飛躍的な進化・成長を遂げています。

「その要因は何か？」ということの中里先生に何うと、「コミュニケーションが大切ではないでしょうか。

ここには各専門家が集まっています。私は、彼らに誇りを持って仕事をしてほしい。また、常に自分の取り組みを疑問に思いながら、いろいろな人の意見を聞く耳も持ってほしい。

これは、自分の考えが全てではないということを理解してほしいのです。現状は完成形ではないし、完成形はいつになってもこないのかもしれない。

しかし、誰のためにやっているのかということと考えたときに、それは永遠に進化することができる。私はスタッフを信頼して任せています。そうすると、互いが互いを尊重して、よい仕事がどんどんできてきます。

自分の部門の成績にとらわれることなく、選手のために何とかしてあげようという気持ちがあれば、必然的によい循環が働くのです」と話してくれました。

これこそが進化・成長の最大の秘訣であり、強みなのです。